

# 日本組織培養学会

平成2年8月25日

## 会員通信 第72号

者一夫光裕川衛・  
 任堅隆利志品防ス  
 貴田木川都予ル  
 行山下鈴菊京イ話  
 発※ 東国ウ電  
 郎 (北福聖上研ケッ  
 国里島マ大究ッ  
 立大県リ崎所チ  
 予学立ア2-10-35  
 研) 医ナ医大)  
 部 線 322  
 (03)444-2181

### § 日本組織培養学会秋季シンポジウム予告

第5回日本組織培養学会秋季シンポジウム

「Bone Cell Biology」

第2回日本組織培養学会細胞工学シンポジウム

「バイオアクティブマテリアルと分化・発生」

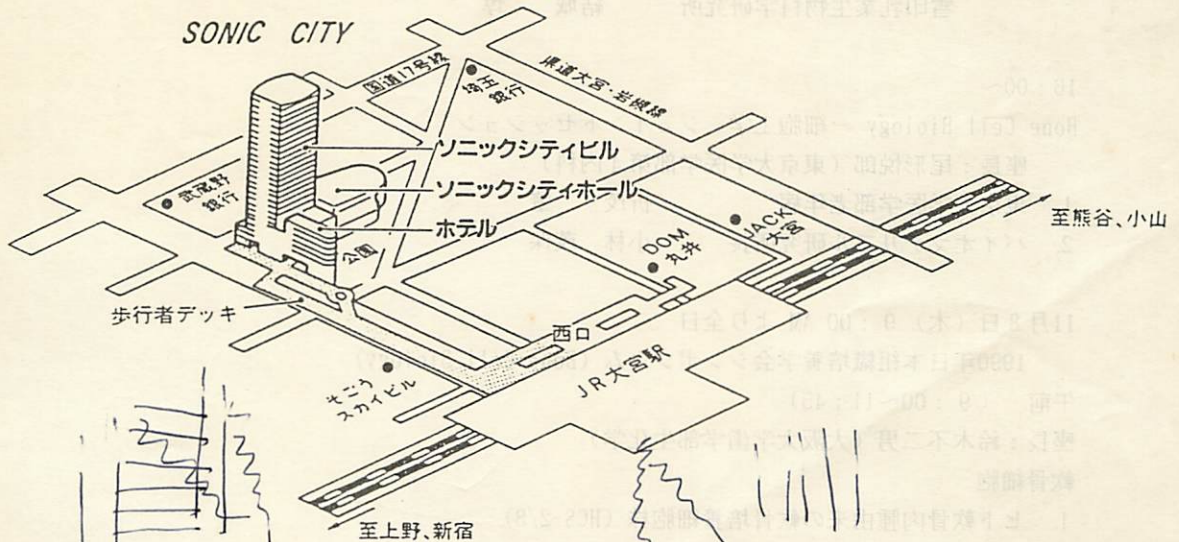
日時 1990年11月7日(水)～8日(木)

会場 ソニックシティー

埼玉県産業文化センター小ホール

〒331 埼玉県大宮市桜木町1-441 (大宮駅西口至近距離)

電話 048-647-4111 ファックス 048-647-4159



至近宿泊施設

パレスホテル (同住所)

電話 048-647-3300

マロウドイン大宮 大宮市桜木町2-173 (西口より徒歩3分)

電話 048-645-5111

## プログラム

11月7日(水) 11:00 AM より

細胞工学シンポジウム「バイオアクティブマテリアルと分化・発生」

座長：小山 秀機 (横浜市立大学 木原研究所)

松村外志張 (明治乳業細胞工学センター)

1. コラーゲンと細胞のIn vitro組織形成  
東京大学教養学部化学科 林 利彦
2. 細胞集合体を用いたIn vitroでの形態形成での誘導とそれに関わる分子の役割  
— 毛包形成を中心に —  
バイオマテリアル研究所 平井 洋平
3. 刺激応答性材料による機能性細胞集合体の形成  
W. R. グレース・日本中央研究所 森 有一
4. マウスES細胞の遺伝子操作  
三菱化成生命科学研究所 東中川 徹
5. トランスジェニックマウスを用いたウィルス病の疾患モデル  
東京大学医科学研究所 岩倉 洋一郎
6. 牛発生卵の遺伝子操作  
雪印乳業生物科学研究所 結城 惇

16:00～

Bone Cell Biology -細胞工学 ジョイントセッション

座長：尾形悦郎(東京大学医学部第4内科)

1. 東京大学医学部老年病 折茂 肇
2. バイオマテリアル研究所長 小林 茂保

11月8日(木) 9:00 AM より全日

1990年日本組織培養学会シンポジウム(Bone Cell Biology)

午前 (9:00～11:45)

座長：鈴木不二男(大阪大学歯学部生化学)

軟骨細胞

1. ヒト軟骨肉腫由来の軟骨培養細胞株(HCS-2/8)  
大阪大学歯学部生化学 滝川 正春
2. トランスフォームしたラット成長軟骨細胞  
防衛医科大学整形外科 沖花 裕行
3. 内軟骨性骨形成におけるコラーゲンmRNAの局在と動態  
熊本大学医学部遺伝病理 猪山 賢一
4. 軟骨疾患動物モデル  
日本獣医畜産大学 鈴木 勝士

午後(12:40~5:30)

座長:小沢英浩(新潟大学歯学部口腔解剖学)

松本俊夫(東京大学医学部第4内科)

骨形成と骨吸収の相互作用に関する形態学的特徴

新潟大学歯学部口腔解剖学 小沢 英浩

骨の培養

帝京大学薬学部 遠藤 浩良

- coffee break -

造骨系細胞 - IGF-1 の作用を中心に -

1. 骨芽細胞におけるIGF-1作用の発現に及ぼすアスコルビン酸の影響

東京大学医学部第4内科 松本 俊夫

2. 骨芽細胞におけるIGF-1作用の発現に及ぼすprostaglandin F<sub>2α</sub>の影響

明海大学歯学部口腔解剖学 羽毛田 慈之

3. 骨芽細胞におけるIGF-1作用の発現に及ぼす1,25(OH)<sub>2</sub>D<sub>3</sub>の影響

岡山大学医学部小児科 清野 佳紀

- coffee break -

骨吸収系細胞

1. 血液幹細胞の純化とその機能の解析

自治医科大学血液内科 須田 年生

2. ヒト破骨細胞の形成について

明海大学歯学部歯周病学 栗原 徳善

3. 破骨細胞の形成の関与する骨芽細胞と造血因子の役割

昭和大学歯学部生化学 高橋 直之

第5回日本組織培養学会秋季シンポジウム

「Bone Cell Biology」

1990年11月7-8日, 大宮

世話人代表 久米川正好

明海大学歯学部 口腔解剖第一講座

電話 0492-85-5511 ファックス 0492-87-6657

第2回日本組織培養学会細胞工学シンポジウム

「バイオアクティブマテリアルと分化・発生」

1990年11月7日, 大宮

世話人代表 小林茂保

株式会社バイオマテリアル研究所

電話 045-851-9271 ファックス 045-851-9270

後援 日本応用細胞生物学研究会

## § 平成2年第1回幹事会議事録

日 時：平成2年5月20日（日），午後3時～6時30分

場 所：京都市左京区高野西開町，「ホリデーイン京都・比叡の間」

出席者：黒田行昭会長，梅田 誠，桶田俊光，菊川忠裕，鈴木利光，中野修治，難波正義，水沢 博（以上旧幹事：欠席 野沢志朗）

今西二郎，岩田邦男，川原 大，下田隆夫，永森静志，西 義介，星 宏良，山田堅一郎（以上新幹事）

委員会からの報告を得るためにオブザーバーとして以下の方の出席をお願いしました。

乾 直道（会計補佐），今西二郎（第63回大会世話人／新幹事として選出）

大野忠夫（細胞バンク小委員会），久米川正好（平成2年度秋期シンポジウム），

小林茂保，松村外志張（細胞工学小委員会），高木良三郎（編集委員長）

黒田行昭会長の挨拶で幹事会が開催されました。

### 1. 報告事項

#### 1) 会長報告（黒田会長）

今大会に授与する平成2年度奨励賞は幹事会に先だって開催された奨励賞審査委員会において鈴木啓司（横浜市大・医学部）会員の次の研究に決定されました。

★ゴールドンハムスター胎児由来細胞におけるX線誘発細胞癌化の多段階性（第62回大会発表）

1991年に日米合同培養学会が開催したいむね，米国組織培養学会から申し入れがありました，積極的に対処したいのでよろしくお願いします。

各幹事の報告に先だって，新幹事の役割分担を決めておいたほうがよいのではなにかとの動議が山田新幹事から出され，新幹事の役割分担をつぎのように決めました。

庶務幹事：今西二郎，岩田邦男

会計幹事：西 義介

渉外幹事：星 宏良

会員通信幹事：下田隆夫，山田堅一郎

奨励賞担当幹事：川原 大，永森静志

#### 2) 庶務報告（水沢幹事）

前回幹事会以降平成元年11月から平成2年4月までの本学会に対する入会者数は正会員23名，退会者数は正会員18名と5名の増加で，5月20日現在の会員数は正会員720名，名誉会員7名，賛助会員64名，海外17名です。

#### 3) 平成2年度秋季シンポジウム開催報告（久米川正好，小林茂保シンポジウム世話人）

本年度の秋季シンポジウムは細胞工学シンポジウムと合同で開催する予定で，細胞工学シンポジウムからは“バイオマテリアルと分化・発生”，秋季シンポジウム

として“骨細胞の生物学 (Bone cell biology)”をテーマに予定し軟骨細胞, 造骨系細胞, 骨吸収系細胞などのセッションを設けて人選を進めています。

日程は11月7日(水), 8日(木)で, 大宮ソニックシティービル(埼玉県産業文化センター)を会場に予定しています。なお, 会費は3,000円, 懇親会費として2,000円を予定しています。

4) 会計報告(梅田幹事)

一般会計および特別会計について平成元年度の決算(表1, 表2)および平成2年度の予算(表3, 表4)について会計幹事から監査を終了したと併せて報告があり, 承認されました。

5) 会員通信報告(鈴木幹事)

年3回を目標に平成元年度は第69, 70, 71号の会員通信を発行しました。2年間を通じてほしい予定どおりに発行できたことが報告されました。発行はおよそ3月, 8月, 10月を目安にしてきました。したがって次回は本年8月発行の予定です。

6) 編集委員会報告(高木編集委員長)

編集委員会が正式に発足してから2回組織培養研究を発行してきましたが, 現時点では名称, 装丁などのスタイルは編集委員会発足以前のを踏襲することになっています。将来は年間4号の発行にするよう努力しますがあまり焦らず着実に進めてゆきたいと思います。

内容的には原著論文を受け付けることが最大の変更点ですが, まだ知られていないようなので宣伝につとめたいと思います。積極的に投稿をお願いします。また, テクニカルノートのような内容のページを作りたいと考えていますが, 関連学会の報告などは会員通信に掲載するようにしたほうがよいと考えられますとの報告がありました。協議の結果編集委員会の方針は承認されました。

なお, (社)日本工学会より著作権に関して(社)日本複写権センターの設立と複写権の委託に関する依頼がありました, これについてはよく調査の上対処することにしました。

7) 幹事選挙結果報告(桶田幹事)

幹事改選の投票は無事終了しました。投票総数は139票, 無効票は0, 選挙管理委員として桶田俊光, 中野修治両幹事, 立会人として小野順子会員(大分医大・内科第一)のもとで開票され, 以下の結果でした。

40歳以上幹事		40歳未満幹事	
当選	今西二郎 66票	当選	川原大 63票
”	永森静志 63票	”	下田隆夫 62票
”	山田堅一郎 63票	”	岩田邦男 23票
”	西義介 60票	”	星宏良 21票
次点	大野忠夫 24票	次点	秦宏樹 14票

以上, 8名の方に平成2年度および平成3年度の2年間の幹事として働いていただくことになりました。

8) 細胞バンク委員会報告(大野委員)

2年間の細胞バンク委員会の活動の総括として報告書を作成したことが報告され

ました。内容は国内の細胞バンクが複数設立されたことを考慮し、品細胞株のデータベース、質管理法として細菌・真菌・マイコプラズマなどの汚染検査やアインザイム検査など、細胞株の所有権や権利問題などを含む細胞株情報システムなどの統一についてまとめられ、細胞バンク全体を利用し易い環境とするための提言を行ったとの報告がありました。また、報告書は「組織培養研究」の増補号として発行されることに承認されました。この報告は会長からの要請により英文にして外国の研究者にも分かるようにしたいと思います。なお、細胞バンク委員会について常置委員会としたい旨希望が出されましたが、協議の結果2年の時限委員会とすることになりました。

#### 9) 教育システム委員会報告(梅田委員)

現在細胞生物学に関する本として「細胞とバイオサイエンス」、毒性学に関する本として「細胞トキシコロジー試験法」を日本組織培養学会編として朝倉書店で出版準備を進めているとの報告がありました。

#### 10) 細胞工学委員会報告(村松委員)

細胞工学委員会は暫定的にスタートしましたが、昨年山根 續委員長 の努力で仙台でシンポジウムを開催することができました。大会においてもバイオテクノロジー関係の斬新な内容のシンポジウムを積極的に開催し、秋季シンポジウムの主催も積極的に行うとの内容を含んだ活動報告がありました。

また、常に新鮮なものを志向することを目的に委員は2年ごとに半数ずつ改選する等を盛り込んだ規約を作成したとの報告があり、委員会を継続することが承認されました。

☆ なお、山田新幹事から小委員会の設置はむやみに増やすと財政を圧迫するので問題があるのではないかと の疑問が提出されました。しかし、梅田幹事、松村細胞工学委員会委員らから教育システム委員会、細胞工学委員会はこれまで「組織培養の技術」や「成長因子」の出版物などでそれぞれ収入があり、財政的には圧迫していないばかりかそれによって学会の収入として寄与していることの説明がありました。また、細胞バンク委員会は、わが国の特殊事情のなかで多数設立された細胞バンク相互の調整を計れるのは組織培養学会のみなので積極的に活動する必要があるのではないかという意見も出されました。また、この協議の中で「細胞バンク委員会はつねに積極的かつ有意義であるとの評価を受けるものでなければならないという視点から常置委員会ではなく2年の時限委員のほうが適当である」との意見が出され承認を得ました。

## 2. 協議事項

### 1) 平成3年度第64回大会開催地において(黒田会長)

次期大会開催地については、黒田会長から本年4月麻布大学(神奈川県相模原市)へ移籍したことにともない、大変に立派な施設を持っている大学なのでぜひここを利用して大会を開催したい旨提案があり、協議の結果了承されました。また、平成3年6月には日米合同組織培養学会が開催されることと、大学が春休みに開催しなければならないことを考慮し、第64回大会は3月下旬か4月上旬に医学会総会の期

日をさけておこないたいとの意向が示され、了承されました。

2) 日米合同組織培養学会準備委員会に関して（黒田会長）

IACCは財政的に苦しく国際会議を開催するまでには至らないでしたが、1991年に米国組織培養学会の際に日本組織培養学会と合同で組織培養会議を開催したい旨米国組織培養学会から申し入れがあり、これに対して積極的に対処するため準備委員会を設立し、会議における特別講演、ミニシンポジウム、ワークショップなどのテーマについて協議をスタートさせたいとの提案がなされ了承されました。

3) 幹事改選方法に関する規約細則の改正について（難波幹事）

本学会の幹事は2年ごとに全員改選されるため、学会の運営上の引き継ぎを円滑におこない幹事の負担を改善する必要があるとの見地から、かねてより幹事改選に関する規約の細則について改正が検討されてきました。昨年の第62回大会における総会で議論がつくされていないのではないかと批判を受けて幹事会ではさらに協議を続け、会員通信第70号に具体的な方法を詳細に掲載して会員への周知をはかってきましたが、再度細則の変更として本大会の総会に諮ることが提案され了承されました。

内容は、幹事の任期はこれまでの2年を踏襲し、選挙が毎年になると財政負担が増えることから、2年ごとに幹事選挙を実施、半数（40才以上2名、40才未満2名）は最初の2年を、残る半数は1年経過後から2年を幹事としてつとめるという主旨です。このため1992年の次回幹事選挙には変則的に最初2年間をつとめる幹事4名と、3年間をつとめる幹事4名を選出し、1994年の選挙では上記のような幹事を選出することになります。これに対してはとくに反論は出されず了承されました。なお、細則の変更については総会での承認は必要としないことが規約とされていますが、より深い理解を得るためには総会に提案し了承を得ることが適当であるということとなりました。

## § 平成2年度第63回大会総会議事録

難波正義庶務幹事の司会で山根 績会員を議長を選出し総会が開会されました。

黒田行昭会長および今西二郎第63回大会世話人の挨拶に引き続き以下の報告、協議が行われました。

### 1. 報告事項

本大会前日の20日に開催された新旧合同幹事会で承認された内容が黒田会長、各幹事および各委員会委員から報告されました。報告内容は会長報告、各幹事、各委員長報告など平成2年度第1回幹事回（新旧合同幹事会）の内容と同じですので、幹事会報告を参照してください。

## 2. 協議事項

- 1) 平成元年度収支決算および平成2年度予算について梅田前会計幹事から説明があり、原案どおり承認されました。
- 2) 幹事改選に関する規約・細則の変更について  
難波庶務幹事から主旨説明があり、協議されました。
  - ★奥村会員から、総会の報告事項は旧幹事が行うことで問題はないと思われるが、規約改正などに関する問題については新幹事が提案するのが妥当であると考えられ、本総会で議論するのは適当ではないと思われると動議が出されました。
  - ★山田新幹事からは20日の新旧合同幹事会では時間もなかったこともあり、新幹事のみによる幹事会はなく、また十分に発言も許されなかったことから非民主的な幹事会の運営であったように思われるのでやはり本総会で協議することは適切でないように考えられるとの補足意見が出されました。
  - ★これに対して水沢庶務幹事から経費の節減なども考慮しなければならないので、幹事会を思うように開催できないことは問題だが、本案件については昨年の総会でも提案され、一度差し戻された後で、その際に指摘された点も考慮して練り直したものであり、十分討議されてきたと考えているとの反論と、20日の幹事会では難波幹事の司会で議事が進行されたが、けして発言を封じるような非民主主義的な運営はなされてはいなかったとの反論がありました。
  - ★黒田会長からはこの問題は昨年の総会后、幹事会でさらに検討を加え、また会員の皆様に周知をはかるために会員通信第70号に詳細に内容を掲載しましたが、これまで会員からの反対の意見は一通もきていないことで、本総会に再度提案し承認を得たい旨の発言がありました。
  - ★山根議長からこうした規約・細則の改正は幹事会の継承性がないことの解消をはかるためのやむを得ない方法であると思われるので採決をしたいと提案があり、本案件に関しての承認が求められ、拍手多数で承認されました。
- 3) その他
  - ★教育システム委員会報告に関連して三井会員から、組織培養用語辞典の編纂が資金不足で進んでいないのではないかとこの質問が提出されましたが、黒田会長よりすでに最終校正を終り印刷に回っているので心配には及ばないとの説明がありました。



## 平成元年度収支決算書

(平成元年4月1日～平成2年3月31日)

### 一般会計 (表1)

#### 収入の部

勘定科目	平成元年度予算額	平成元年度決算額	摘 要
正 会 員 会 費	2,400,000 円	2,503,000 円	
賛 助 会 員 会 費	1,690,000	1,690,000	
入 会 金	50,000	62,000	
繰 入 金	0	0	
広 告 収 入	1,000,000	1,468,750	
雑 収 入	0	97,200	BackNo.収入
小 計	5,140,000	5,820,950	
前 年 度 繰 越 金	670,866	670,866	
合 計	5,810,866	6,491,816	

#### 支出の部

勘定科目	平成元年度予算額	平成元年度決算額	摘 要
研究誌No.2 発行費	1,600,000 円	1,798,000 円	
会員通信発行費	400,000	440,943	No.69～71
大会補助金	400,000	400,000	
新規事業補助金	300,000	300,000	細胞工学シンポジウム
I A C C 加盟費	200,000	186,640	
I A C C 事務費	100,000	0	
業務委託費	900,000	884,590	
研究誌No.2 発送費	200,000	160,650	
事務通信費	500,000	406,884	会員通信送料
会員名簿作成費	600,000	412,320	会費請求書送料等
幹事会議費	400,000	547,960	
編集会議費	200,000	152,808	
雑費	0	82,914	供花代、印刷費等
予備費	10,866	0	
小 計	5,810,866	5,773,709	
収 支 差 額	0	718,107	
合 計	5,810,866	6,491,816	

特別会計 (表2)

収入の部

勘定科目	平成元年度予算額	平成元年度決算額	摘要
寄付金収入	520,110 円	520,110 円	合同酒精より 朝倉書店より印税
出版収益	100,000	407,880	
広告収入	0	0	
利子収入	150,000	168,213	
雑収入	0	0	
小計	770,110	1,096,203	
前年度繰越金	9,345,981	9,345,961	
合計	10,116,071	10,442,164	

支出の部

勘定科目	平成元年度予算額	平成元年度決算額	摘要
外国人招待費	100,000 円	100,000 円	賞金, 用紙印刷代
学会奨励費	300,000	377,000	
引渡金	0	0	
細胞バンク委員会	300,000	300,000	IACC出張費
細胞工学委員会	300,000	300,000	
雑費	600,000	582,024	
小計	1,600,000	1,659,024	
収支差額	8,516,071	8,783,140	
合計	10,116,071	10,442,164	

## 平成 2 年度予算

(平成 2 年 4 月 1 日～平成 3 年 3 月 31 日)

<一般会計> (表 3)

### 収入の部

勘 定 科 目	平成 2 年度予算額	備 考
正 会 員 会 費	2,450,000 円	
賛 助 会 員 会 費	1,690,000	
入 会 金	50,000	
広 告 収 入	1,200,000	
雑 収 入	0	
小 前 年 度 繰 越 計	5,390,000	
	718,107	
合 計	6,108,107	

### 支出の部

勘 定 科 目	平成 2 年度予算額	備 考
研究雑誌No.2 発行費	1,800,000 円	
会 員 通 信 発 行 費	400,000	
大 会 補 助 金	400,000	
秋 期 シ ン ポ ジ ュ ム 補 助 金	300,000	
I A C C 加 盟 費	200,000	
I A C C 事 務 費	100,000	
業 務 委 託 費	900,000	
研 究 誌 No. 2 発 送 費	180,000	
事 務 通 信 費	500,000	
会 員 名 簿 作 成 費	250,000	来年度繰越金
幹 事 会 議 費	500,000	
編 集 会 議 費	200,000	
雑 費	0	
予 備 費	378,107	
小 収 支 差 計 額	6,108,107	
	0	
合 計	6,108,107	

<特別会計> (表4)

収入の部

勘定科目	平成2年度予算額	備考
寄付金収入	500,000 円	合同酒精より 朝倉書店より
出版収益	200,000	
利子収入	150,000	
雑収入	0	
小計	850,000	
前年度繰越金	8,783,140	
合計	9,633,140	

支出の部

勘定科目	平成2年度予算額	備考
外国人招待費	100,000 円	
学会奨励費	300,000	
細胞バンク委員会	150,000	
細胞工学委員会	150,000	
細胞バンク委員会 報告印刷費	300,000	
小計	1,000,000	
収支差額	8,633,140	
合計	9,633,140	

## § 第63回大会を終えて

第63回大会世話人 今西二郎（京都府立医大・微生物）

第63回大会は平成2年5月21日から23日の3日間にわたって国立京都国際会館で開催された。関西とくに京都での開催は久しぶりということで、いろいろな先生方から期待されていたようである。しかし、それらの先生方の期待に答えられたかどうかは少し心もとない。

初日の5月21日には、一般講演および大分医大内科高木良三郎教授による特別講演、シンポジウムが行われた。

特別講演のテーマは、「機能培養—in vivo へのアプローチ」で、膵臓細胞の培養の基礎的研究から臨床応用までわたって話された。高木教授やその研究室の成果には、いまさらながら敬服させられた。

また、シンポジウムは「小児固形腫瘍の細胞・分子生物学的特性」のテーマで、京都府立医大沢田教授、慶応大秦教授の座長により行われた。現在話題になっているRB遺伝子など最先端の話題が4題発表され、活発な討論が交わされた。

6時から、懇親会が京都国際会議場の庭園で行われた。ちょうど季節もよく、天候にも恵まれ、邦楽の演奏などをバックミュージックに、盛会のうちに終わったと思っている。

2日目の22日は、午前中にシンポジウムと一般講演が行われた。シンポジウムは「神経系細胞の形態分化と機能発現」というテーマで、福島医大鈴木教授、名古屋市立大加藤教授の座長により、4つの小テーマについて発表があった。ここではサイトカインや神経系細胞の機能発現など今まであまり組織培養学会では取り上げられないテーマもいくつか含め、興味深い研究成果が発表された。

午後からは、教育講演2題が、東大黒木教授、京都府立医大山口講師の座長のもとに行われた。教育講演は、実際に組織培養を用いた研究を行っている研究者に役に立つことを目的とした。

最初は京都府立医大三澤講師に、「染色体分析における高精度分染法の展開と分子遺伝的手法の応用」のテーマで、組織培養研究に必要な染色体分析についてのあらましと最新の手法について話していただいた。

もう一つは、「微量生理活性ペプチドの遺伝子クローニングによる構造決定と生産」というテーマで、サントリー・生医研の中里博士にやっていただいた。培養細胞から分泌されるさまざまな生理活性物質を精製し、遺伝子クローニングする具体的な方法を自分の研究を中心に、わかりやすく解説してもらった。

ついで、「ホルモン依存性腫瘍」というテーマのシンポジウムが京都府立医大本庄助教授、慶応大学野沢教授の座長で行われた。ホルモン依存性腫瘍については、何度も組織培養学会大会でも取り上げられているが、今回は胃癌に触れるなど特徴をもたしたつもりである。

5月23日の最終日には、午前中はすべて一般講演が行われ、午後からは特別講演とミニシンポジウムを行った。

特別講演は、Coriell Institute for Medical Research 所長 Gerard J. McGarrity 博士により、「Effects of Mycoplasmas on Cell Culture Systems」のテーマで行われた。培養細胞におけるマイコプラズマ汚染の検出法とその対策が中心であった。また、この特別講演の特別コメンテーターとして Hayflick 博士に意見を述べていただいた。

引き続き、「Mycoplasma and tissue culture」というテーマで、ミニシンポジウムを行った。ミニシンポジウムは今まで組織培養学会で取り上げられなかった発表形態である。一般演題よりも発表時間を長くし、マイコプラズマと組織培養という点に的をしばった。一つはマイコプラズマ汚染の除去について、もう一つはマイコプラズマ感染を起こした場合の、細胞の動態についての話題を取りあげた。これは McGarrity 博士と国立予研奥村博士の座長のもとで行われた。

今大会では、結果としてややシンポジウムや特別講演が多すぎ、一般講演が軽るんじられているようにも見うけられたのではないかと心配している。この点は今後反省すべきかと思われる。

会場の国立京都国際会館は交通の便がやや悪く、京都駅からは30分以上かかるなど、参加者には多少の不便をおかけしたかも知れない。この穴埋めとして、会場近くのホリデイイン京都をメインホテルとし、国際会館とホテルの間のシャトルバスをもうけることによって交通の便をよくしたつもりである。しかし十分PRができず、シャトルバスの利用が必ずしも多かったとはいえ、残念である。

また、世話人の不慣れのために、参加者の先生方には、いろいろ御迷惑をおかけしたかもしれないが、どうかご容赦いただきたい。

3日間の参加人数は約300名であり、展示出展会社も約40社にのぼり、総じて何とか満足の行くできであったと自分に言い聞かせている。これも学会幹事の先生方や大会の実行委員の先生方の賜物と深く感謝している。

## § 幹事改選に関する規約細則の改正について

1990年5月20日の幹事会及び5月21日の第63回日本組織培養学会総会に於て、以下のよう  
に規約細則を改正することが承認された。

### “細則の第3章”

細則の第3章4項を以下のように変更する。

4. 幹事の投票は8名連記、無記名、郵送によって行う。40才未満について、得票数  
の上位1、2位の各2名を次年度より2年間の、3、4位の各2名を次々年度より2年  
間の幹事とする。

## § 日本組織培養学会第64回大会のお知らせ

来年の日本組織培養学会第64回大会は、下記のように神奈川県相模原市にある麻布大  
学で開催いたします。麻布大学は東京からはJR中央線、京王相模原線、小田急線など  
で約1時間30分、新幹線横浜駅からJR横浜線で30分、矢部駅の近くにあります。来年  
は6月中旬に日米両組織培養学会の共催による“1991 World Congress on Cell and  
Tissue Culture”が開催されることとなりますので、第64回大会は例年より開催時期を  
少し早めて、3月下旬に開催することにいたしました。多数の方々のご参加を期待して  
います。

と き：平成3年3月22日（金）～24日（日）

ところ：麻布大学キャンパス

〒229 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71

総会、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、一般講演、（口演およびポスター）、  
懇親会、機器展示などを予定しています。シンポジウムやワークショップのテーマとし  
ては宇宙細胞生物学、パターン形成、AIDS、がん抑制遺伝子、全胚培養、無脊椎動物細  
胞培養、培養細胞の移植、培養液標準化などを考えています。会員の皆様からの積極的  
なご提案、ご参加をお願いいたします。

世話人：〒229 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71

麻布大学 生物科学総合研究所

黒田行昭

TEL 0427-54-7111（内線430）

FAX 0427-54-7661

## § 日米合同組織培養学会のお知らせ

日本組織培養学会会長  
日米合同組織培養学会組織委員長  
黒田行昭

来年、1991年6月16日～20日アメリカのカリフォルニアのアナハイムで開催する日米合同組織培養学会につきましては、会員通信第71号（平成2年3月20日発行）でお知らせしましたが、本年、6月10日～13日、アメリカのヒューストンで開かれたアメリカ組織培養学会第41回大会に、会長の E. M. Levine博士（ウイスター研）からの招きで、私が出席し、上記合同学会の内容について、日本側の意向を説明し、大筋ではほぼ意見が一致し、具体化に向けて共同で作業を進めることになりました。また、この会議は日米両組織培養学会の開催ですが、ヨーロッパの組織培養の研究者にも呼びかけて、名称も“1991 World Congress on Cell and Tissue Culture”とすることになりました。プログラムの内容はつぎのように計画されています。

### 1991 World Congress on Cell and Tissue Culture

- (1) 会期：1991年（平成3年）6月15日（土）～19日（水）
- (2) 場所：米国 California 州 AnaheimのMarriot Hotel
- (3) プログラム：
  - 6月15日（土）
    - 夜 1) Historical Society Session
    - 2) Welcome Party
  - 6月16日（日）
    - 午前 1) シンポジウム：Regulation of Cell Growth in Tissue Formation  
コンペナー：David Altman
    - 2) 一般講演
    - 午後 1) セッション・イン・デプス（S. D. I.）
      - (1) Developmental Biology of Embryogenesis
      - (2) Growth Control：Cells from Bone and Marrow
      - (3) Cellular Effects of Drug Abuse
    - 2) ポスター展示
    - 3) ポスター討論
    - 夕方 ワークショップ1：（計画中）  
ワークショップ2：（計画中）
    - 夜 学生会
  - 6月17日（月）
    - 午前 1) 特別トピックス Biotechnology in the Third World
    - 2) セッション・イン・デプス



- (4) Batch Production and Fermentation
  - (5) Cell Culture of Endangered Species
  - (6) Junctions and Cell Behavior
  - 午後 1) セッション・イン・デプス
    - (7) Robotics for Cell Culture
    - (8) Tissue Specific Transgenes
    - (9) Cell Adhesion Mechanisms
  - 2) ポスター展示
  - 3) ポスター討論
  - 夕方 1) ワークショップ3 : (計画中)
    - ワークショップ4 : Large Scale Eukaryotic Cell Culture
  - 2) 植物分科会
  - 3) 植物分科会部会
- 6月18日(火)
- 午前 1) シンポジウム : Cellular Interaction in Tissue Development
    - コンベナー : Elliot Levine
  - 2) 一般講演
  - 午後 1) セッション・イン・デプス
    - (10) Special and Temporal Promoters
    - (11) Innovative Approaches to Antibody Production
    - (12) Invertebrate Cell Session
  - 2) ポスター展示
  - 3) ポスター討論
  - 夕方 1) ワークショップ5 : Industrial Strategies for Biotechnologies
  - 2) ワークショップ6 : Drug Delivery Systems
- 6月19日(水)
- 午前 1) 授賞式
  - 2) セッション・イン・デプス
    - (13) Pollen Culture and Androgenesis
    - (14) Transplantation of Normal and Genetically Altered Cells
    - (15) Reproductive Toxicology
  - 午後 1) セッション・イン・デプス
    - (16) Field Testing of Transgenic Plants
    - (17) Cells from Fish and Amphibians
    - (18) Molecular Basis of Cellular Aging
  - 夕方 バンケット
- 6月20日(木)
- 1) シンポジウム : Hormone Receptor Action and Signal Transduction
    - コンベナー : Bruce Zetter
  - 2) 一般講演

3) ワークショップ7 : (計画中)

4) ワークショップ8 : (計画中)

シンポジウム, セッション・イン・デプス, ワークショップなどにも多数の日本の方々に講演者をなさっていただくことになると存じますが, 一般講演(口演およびポスター発表)にもできるだけ多数の方々の発表を期待しております。

(4) Group TourおよびScientific Tour について

日本からの参加者にはできるだけ安い航空運賃で行けるようなGroup Tourを計画しています。また, 学会前後にアメリカの組織培養を行っている大学や研究機関, Cell Bank や培養資材製造メーカーなどを訪問するScientific Tour も計画しています。このことにつきまして, 参加される希望者の意見をできるだけ取り入れた計画を作成したいと存じますので, 学会およびScientific Tour に参加(予定を含む)の方々は別紙のアンケート用紙にご記入の上9月25日(火)までに下記宛にお送りください。

〒229 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71

麻布大学 生物科学総合研究所

黒田 行昭

TEL 0427-54-7111 (内線 430) FAX 0427-54-7661

<アンケート>

“1991 World Congress on Cell and Tissue Culture”  
(日米合同組織培養学会)の参加について

回答者 所属(所在地, 機関) :

氏名 :

- (1) あなたは標記学会に参加(予定を含む)されますか。  
はい( ) いいえ( )
- (2) 割引航空運賃によるGroup Tourがあれば参加されますか。  
はい( ) いいえ( )
- (3) 学会前後にScientific Tour を行うのに学会の前と後とどちらがよいですか。  
前の方がよい( ) 後の方がよい( ) 参加しない( )
- (4) Scientific Tour はどれ位の期間がよいですか。  
2日( ) 3日( ) 4日( ) 5日( ) 5日以上( )
- (5) 地理的にはアメリカのどちらがよいですか。  
西海岸( ) 西および東海岸( ) 全米( ) カナダ( )
- (6) 訪問先はどこがよいですか。  
脊椎動物( ) 無脊椎動物( ) 植物( ) 基礎研究( )  
応用研究( ) 製薬会社( ) その他( )
- (7) どのような研究機関を訪問したいですか。  
大学( ) バイオテク企業( )  
ATCC( ) その他( )
- (8) あなたがとくに訪問したい機関があればどこですか。  
( )
- (9) このTourに研究関係以外の分化的施設やレクリエーション施設を含めた方がよいですか。  
はい( ) いいえ( )  
含める場合はどこですか。  
( )

参加を予定されている方のご意見をできるだけ取入れて計画したいと存じますので、本アンケート用紙を9月25日(火)までに下記にお送りください。

送付先: 〒229 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71

麻布大学 生物科学総合研究所

黒田 行昭

TEL 0427-54-7111(内線 430)

FAX 0427-54-7661



## § 第5回日本組織培養学会奨励賞募集要項（平成3年度）

本奨励賞は、昭和60年（1985年）9月、本学会共催のもとに仙台で開催されました第3回国際細胞培養会議（3rd International Cell Culture Congress）の世話をされました山根 績会員から、運営余剰金 500万円を若手研究者の研究を奨励するために寄付いただいたものに基づいて設けられました。本学会ではこれまで既に次のような4回、6名の方々に奨励賞を授与しております。

### 第1回 昭和62年度

菅 幹雄 （東北大学・抗酸菌研）

培養器壁に吸着した線維芽細胞由来因子によるヒト臍帯静脈内皮細胞の増殖刺激  
（第58回大会発表）

### 第2回 昭和63年度

宮崎 正博 （岡山大学・医学部・癌研）

初代無血清培養成熟ラット肝細胞の長期維持の試み（第60回大会発表）

武富 真子 （日本たばこ㈱・中研）

ツパイア細胞の樹立とその変異原性試験への応用（第60回大会発表）

### 第3回 平成元年度

越智 崇文 （帝京大学・薬学部）

カドミウム毒性に対する細胞防御因子としてのグルタチオンおよびメタルチオネインに関する研究（第60回大会発表）

山田 雅保 （重井医学研究所）

腎糸球体上皮細胞株（SCEI）の樹立、培養条件および特性に関する研究  
（第61回大会発表）

### 第4回 平成2年度

鈴木 啓司 （横浜市大・医学部）

ゴールデンハムスター胎児由来細胞におけるX線誘発細胞がん化の多段階性  
（第62回大会発表）

過去2年度内（平成元年度、平成2年度）に筆頭者として日本組織培養学会大会（第62回、第63回）で発表された方のうち、学術雑誌に発表された方（第一著者で受理中も可）で40歳未満（平成3年4月1日現在）の日本組織培養学会に所属する若手研究者に授与されます（選考基準、選考方法などについては会員通信64号4～5頁をごらんください）。条件にあった方はふるって別紙推薦書を添付のうえ応募されますよう御案内申し上げます。

締切期限は平成2年12月20日といたします。

例年、ご推薦が少なく、選考委員会では多数の方々の推薦を期待しておりますので該当される若手研究者を奮って御推薦（自薦可）下さい。

なお、推薦にあたっては以下の書類、論文の別刷を下記住所まで御返送下さい。

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| 1) 推薦／自薦書（本要項次頁）                | 1 通 |
| 2) 内容要旨（400字詰 B 5 版原稿用紙 2 枚以内）  | 1 通 |
| 3) 推薦状（自他薦可）                    | 1 通 |
| 4) 履歴書（B 5 版）                   | 1 通 |
| 5) 発表論文のコピー（別刷又はin pressの場合は原稿） | 15部 |

書類送付先：〒540

大阪市中央区大手前 1 - 5 - 3 1

大阪歯科大学 歯科理工学教室内

日本組織培養学会奨励賞選考委員会

川原 大 宛

（奨励賞選考幹事：永森 静志，川原 大）

なお、封筒の表に、「日本組織培養学会奨励賞選考書類」と明記願います。

## 日本組織培養学会奨励賞一選考規定

- 第 1 条 名 称：日本組織培養学会奨励賞と称する。
- 第 2 条 目 的：将来性ある有能な若手研究者の研究を奨励し本学会の活性化を図ることを目的とする。
- 第 3 条 授賞対象：本学会で発表され（形式不問）、学術雑誌（邦文、欧文双方とも可）に掲載された論文（受理論文可）の第 1 著者であって、当該会計年度の 4 月 1 日現在で 40 才未満の会員であること、原則として毎年 1 ～ 2 名に授与される。
- 第 4 条 発表期限：過去 2 年度内に本学会で発表されたものに限る。
- 第 5 条 応募方法：論文別刷もしくは受理論文原稿のコピー 15 部、また内容要旨（400 字詰原稿用紙 2 枚以内）、推薦状（自他薦可）ならびに履歴書各 1 通を幹事会（奨励賞選考幹事）に提出する。なお応募期限は毎年前年度の 12 月 31 日までとする（消印有効）。
- 第 6 条 選 考：別記細則により幹事会で審査、決定する。
- 第 7 条 表 彰：本学会の総会時に会長が発表し、賞状ならびに副賞（30 万円）を贈る。授賞者が多数の場合は副賞を分割することとする。
- 第 8 条 改 訂：幹事会を経て総会で行う。
- 附 則：本選考規定は昭和 62 年度から実施し、初年度は特例として 63 年度と併せて表彰する。
- 細 則：第 1 条：審議の上無記名投票により授賞者を決定する。  
第 2 条：投票は会長、幹事 8 名、指名幹事（会計、庶務各 1 名）2 名および当該研究発表時の座長で行う。  
第 3 条：幹事および座長が候補者である場合は投票できないものとする。

日本組織培養学会奨励賞〔推薦書／自己推薦書〕（どちらか線で消す）

日本組織培養学会会長 殿

下記の若手研究者を日本組織培養学会奨励賞に推薦いたします。

氏 名：

生年月日：

所 属：

住 所：

電 話：

本学会での発表：

年 月 日：

演 題 名：

発表者氏名：（全員記入のこと）

発表論文：（論文名：著者，題名，雑誌名，巻，号，ページ，年）

推薦理由：（別紙の場合はB 5版 400字詰原稿用紙）

平成 年 月 日

推薦者氏名：

所属・現職：

住所：

（自薦の場合は本人の所属，氏名）

\*本用紙をコピーしてお使い下さい。

## § 公募記事

平成2年6月12日

日本組織培養学会  
会長 黒田行昭 殿

財団法人 島津科学技術振興財団  
理事長 岡本道雄

財団法人 島津科学技術振興財団による研究開発助成の  
公募記事掲載依頼

拝啓 初夏の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当財団の平成2年度の題記事業につきまして、貴会の会誌にぜひ添付の公募記事を掲載いただきたく、お願い申し上げます。当財団としては、貴会ご関係の研究者の方々に少しでもお役に立てればと、念願いたしておりますので何卒宜しくお取り計らいください。

末筆ながら、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬 具

### 島津科学技術振興財団による研究開発助成応募要綱

#### 1. 助成の対象

科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究を対象とする。ただし、助成対象者は原則として45才以下とする。

#### 2. 助成の内容

上記研究に対し、助成金を交付する。

援助件数：10～15件程度 1件につき 250万円ないし 100万円

#### 3. 応募の方法

当財団に用意された所定の研究開発助成申込用紙に必要事項を記入して、当財団に



直接申し込む。

申込締切は9月末とする。

4. 選考審査の方法

当財団に設置する選考委員会が選考し、理事会が審議し決定する。

5. 交付の方法

平成3年2月(予定)に開く贈呈式において助成金を交付する。

6. 連絡先：財団法人 島津科学技術振興財団

〒604 京都市中京区河原町通二条下ルーノ船入町 378番地

電話 (075) 256-5533

## 島津科学技術振興財団による海外研修研究援助応募要項

1. 援助の対象

海外の研究集会に研究発表のため出席する研究者および海外留学者を援助の対象とする。ただし、援助対象者は原則として40才以下とする。

2. 援助の内容

上記研究者、留学者に対し、所要費用の一部を援助する。

援助件数 : 30件程度

援助金総額: 450万円(1件15万円程度)

3. 応募方法

当財団所定の申込用紙に必要事項を記入し、招待状、研究業績リスト、履歴書、現所属機関上司の推薦状および承諾書(別紙参照)を添えて、当財団に直接送付する。

申込期限: 4月末、7月末、10月末、1月末(年4回)

4. 選考審査の方法

当財団に設置する選考委員にて審査し、理事長の承認を経て決定する。

5. 援助の方法

審査決定の都度、理事長もしくは理事長が指名する者から援助金を贈呈する。

6. 連絡先

財団法人 島津科学技術振興財団 事務局

〒604 京都市中京区河原町通二条下ルーノ船入町 378番地

電話 (075) 256-5533

※ 島津科学技術振興財団による公募の応募用紙が必要な方は下記まで御連絡下さい。

用紙をお送り致します。

〒257 神奈川県秦野市名古木 2 3

日本たばこ産業(株)安全性研究所

岩 田 邦 男 宛

TEL 0463-81-1277

FAX 0463-82-3444

## § 編集後記

○第63回大会は、今西二郎世話人並びに関係者の御尽力により、緑美しい京都北山の麓、国立京都国際会館で充実した盛大な内容で無事終了しました。懇親会では情緒あふれる邦楽の演奏に耳を傾け、参加者一同、古都ならではの趣きを大いに満喫しました。今西世話人の御苦勞、御配慮に深謝致します。

○今大会では学会奨励賞が鈴木啓司（横浜市大・医）会員に贈られました。今回は1名だけの受賞になりましたが、第5回奨励賞には多数の方々の御応募を願っております。

○第5回秋季シンポジウムは第2回細胞工学シンポジウムと合同で11月7、8日両日に亘って大宮市で開催されます。会員各位の活発な御参加、御討議をお願い致します。

○幹事改選の年に当たり、新幹事による初めての会員通信です。旧幹事の皆様方のこれまでの御尽力に感謝すると共に、新たな意欲に燃えて出発したいと思っております。会員皆様方の御協力、御鞭達をお願い致します。

○空梅雨に続き、連日の猛暑で、電力不足、水不足と厳しい状態の夏でした。しかし、この厳しさを乗り越えれば実りある秋が訪れます。この会員通信が実りある秋に向かっての呼び水とならんことを祈って会員の皆様方にお届け致します。

陽炎に ゆれたつ峰に むかいたり

(K. Y)

## § 新入会員

氏名	現住所	所属機関・所在地
明尾 潔	〒165 中野区鷺宮3-13-1-202 ☎03-310-1839	慶應義塾大学医学部眼科学教室 *〒160 新宿区信濃町35 ☎03-353-1211
池田 のりこ	〒170 板橋区赤塚新町3-6-2-102 ☎03-977-1840	日本BCG製造(株)中央研究所 *〒204 清瀬市松山3-1-5 ☎0424-91-0611
石川 正洋	*〒377-04 群馬県吾妻郡中之条町西中之条 192-123	(株)日本実験医学研究所 〒377-09 群馬県吾妻郡吾妻町大戸花立 3303 ☎0279-69-2216
井上 玲	〒176 練馬区豊玉南2-25-2-101 ☎03-948-6446	(株)相模中央化学研究所 *〒229 相模原市西大沼4-4-1 ☎0427-42-4791
及川 勉	〒343 越谷市千間台西3-2-11-206 ☎0489-74-2898	(株)東京都臨床医学総合研究所 *〒113 文京区本駒込3-18-22 ☎03-823-2101
金谷 一司	〒370 高崎市上佐野町1096-1, B-39 ☎0273-27-1251	日本抗体研究所 *〒370 高崎市栄町17-5 ☎0273-26-1753
金村 成智	〒612 京都市伏見区両替町 3-323-611 ☎075-622-5119	京都府立医科大学歯科 *〒602 京都市上京区河原町通広小路上 ル梶井町465 ☎075-251-5641
荻草 富美子	〒203 東久留米市前沢4-9-19 ☎0424-74-3730	防衛医科大学校生化学第二 *〒359 所沢市並木3-2 ☎0429-35-3311
佐川 公矯	〒803 久留米市諏訪野町2570-8-704 ☎0942-39-5884	久留米大学医学生化学第二 *〒830 所沢市並木3-2 ☎0429-35-3311
佐藤 光男	〒194 町田市旭町3-6-6 研友寮202 ☎0427-29-5295	協和発酵東京研究所佐藤(征)グループ *〒194 町田市旭町3-6-6 ☎0427-25-2555
沢崎 嘉男	〒350-13 狭山市柏原3116-202-39-7 ☎0429-53-2957	防衛医科大学校第二生化学 *〒350 所沢市並木3-2 ☎0429-95-1211
辛 昌錫	〒177 練馬区南中1-18-15 ☎03-995-6101	(株)千翔 *〒160 新宿区歌舞伎町2-42-16-3B ☎03-209-6181
竹澤 俊明	*〒259-11 伊勢原市東成瀬31-15 ニフテ ィ34-302 ☎0463-92-0575	グレース日本中央研究所新分離システム 開発部 〒243 厚木市金田100 ☎0462-25-8774

氏名	現住所	所属機関・所在地
徳田 一弥	〒401 山梨県南都留郡河口湖町船津 5123-1カーササユイ111 ☎0555-73-3654	サンド薬品(株)サンド薬品研究所 *〒401-03山梨県南都留郡河口湖町河口 236 ☎0555-76-7955
広瀬 偉美子	〒145 大田区田園調布本町11-10 ☎03-722-2079	東京大学医科研究所癌病態学研究所 *〒108 港区白金台4-6-1 ☎03-443-8111
増井 徹	〒170 豊島区上池袋3-20-7-202 ☎03-576-6665	(財)癌研究会癌研究所細胞生物部 *〒170 豊島区上池袋1-37-1 ☎03-918-0111
美甘 晋介	〒153 目黒区下目黒5-9-5 ☎03-794-3385	東京大学医科学研究所 *〒108 港区白金台4-6-1 ☎03-443-8111
宮田 博	〒167 杉並区荻窪5-30-17 豊栄プラ ザ1107 ☎03-220-0672	慶應義塾大学医学部眼科学教室 *〒160 新宿区信濃町35 ☎03-353-1211
宮本 庸平	〒606 京都市左京区北白川蔦町9-1 明華ハイツ102 ☎075-712-3293	京都大学農学部畜産学科家畜生体機構 学研究室 * 〒606 京都市左京区北白川追分町 ☎075-753-6324
矢島 正純	*〒150 渋谷区広尾4-1-10-1006 ☎03-498-1652	国立がんセンター研究所 *〒104 中央区築地5-1-1 ☎03-542-2511
安野 洋一	〒610-01城陽市寺田深谷64-133 ☎07745-2-8468	京都府立医科大学皮膚科学教室 *〒602 京都市上京区河原町通広小路上 ル梶井町465 ☎075-251-5111
山西 清文	〒602 京都市上京区寺町通今出上ル 2丁目本満寺前町58, 103 ☎075-255-6288	京都府立医科大学皮膚科学 *〒602 京都市上京区河原町通広小路上 ル梶井町465 ☎075-251-5587

## § 住所変更

氏名	現住所	所属機関・所在地
朝倉真澄	〒257 秦野市平沢975 ☎0463-82-8336	日本バイオアッセイ研究センター変異原性試験部 *〒257 秦野市平沢 ☎0463-82-3911
石井新	〒525-30滋賀県栗太郡栗東町小柿 1093-4サントピア草津402号 ☎0775-53-8589	京都専売病院 *〒605 京都市東山区妙法院前側町447
石田貴文		東京大学理学部人類学教室 〒113 文京区本郷7-3-1 ☎03-812-2111
石橋整	〒316 日立市西成沢町1-7-1-306 ☎0294-34-3524	(株)日立製作所基礎研究所 *〒350-13埼玉県比企郡鳩山町赤沼2510 ☎0492-96-6111
乾直道	〒251 藤沢市辻堂新町2-4-12 ☎0466-36-7162	北里研究所バイオアトリックセンター *〒108 港区白金5-9-1 ☎03-444-6161
内海和彦		愛知県がんセンター研究所超微形態学部 *〒464 名古屋市千種区鹿子殿1-1 ☎052-762-6111
榎並淳平		全薬工業(株)バイオテク研究室 *〒178 練馬区大泉町2-33-7 ☎03-922-5131
尾崎史郎		組織培養記念研究所 *〒321 宇都宮市平出町368-8 ☎0286-62-5631
唐木幸子	〒193 八王子市並木町24-16 吟風荘	オリンパス光学工業(株)バイオメディカルリサーチセンター *〒192 八王子市久保山町 ☎0426-91-7111
喜多野征夫	〒630 奈良市中筋15 ☎0742-22-6041	兵庫医科大学皮膚科学教室 *〒663 西宮市武庫川町1-1 ☎0798-45-6652
黒田行昭	〒411 三島市初音台24-8 ☎0559-71-7224	麻布大学生物科学総合研究所 *〒229 相模原市淵野辺1-717-71 ☎0427-54-7111
奥貴美子	*〒153 目黒区上目黒5-20-24 ☎03-791-3666	
小島雅彦		平塚市民病院産婦人科 *〒254 平塚市南原1-19-1 ☎0463-32-0015

氏名	現住所	所属機関・所在地
小山 恒太郎	*〒244 横浜市戸塚区品濃町553-1 パークヒルズJ904 ☎045-821-7975	
佐藤 二郎	*〒704 岡山市中川町242-1	岡山大学医学部附属癌源研究施設病理部門 〒700 岡山市鹿田町2-5-1 ☎0862-23-7151
洪川 朝子	〒329-11 栃木県河内郡河内町中岡本 2566-46 ☎0286-73-1310	組織培養記念研究所 *〒321 宇都宮市平出町368-8 ☎0286-62-5631
島田 貴	*〒211 川崎市幸区北加瀬1-8-1 新川崎パークホームズ206	東京慈恵会医科大学第二内科 〒105 港区西新橋3-25-8 ☎03-433-1111
清水 石淳	〒933 高岡市三女子153-1 ☎0569732-2032	富士薬品工業(株)研究所薬理研究所 *〒933 高岡市長慶寺530 ☎0766-21-3456
高橋 千春	*〒153 目黒区中目黒4-3-3 エスプラ ナード中目黒二番館101 ☎03-793-1399	
津島 知靖	*〒703 岡山市八幡102- ☎0862-75-4369	
中村 好志	〒420 静岡市大岩43-1 ☎0542-46-1347	静岡県立大学薬学部 *〒422 静岡市谷田395 ☎0542-64-5682
花岡 文雄	〒165 中野区鷺宮1-26-10 ☎03-337-9465	理化学研究所放射線生物学研究室 *〒351-01 和光市広沢2-1 ☎0484-62-1111
林 俊郎	*〒214 川崎市多摩区生田5-7-3 ☎044-966-1968	千葉敬愛短期大学国際教養科 〒285 佐倉市山王1-9 ☎0434-86-7111
藤吉 宣男	〒194 町田市旭町1-12-2 ☎0427-25-9009	協和発酵工業(株)製品・技術開発センター *〒100 千代田区大手町1-6-1 大手町ビル
松井 克明	〒683 米子市三旗町63 ☎0859-34-4603	山陰労災病院 *〒683 米子市皆生新田1-8-1 ☎0859-33-8181
三橋 淳	〒112 文京区小石川1-28-13 ☎03-811-5064	東京農工大学農学部応用生物科学科応用 昆虫学研究室 *〒183 府中市幸町3-5-8 ☎0423-64-3311

氏 名	現 住 所	所 属 機 関 ・ 所 在 地
牟 礼 洋	*〒891-01鹿児島市五ヶ別府町331-12	鹿児島大学医学部第一外科 〒890 鹿児島市宇宿町1208-1 ☎0992-64-2211
横 川 泰	〒891-01福岡市西区今宿駅前 1-8-5-305	国家公務員等共済組合連合会浜の町病院 内科 *〒810 福岡市中央区舞鶴3-5-27

## 社 名 変 更

機 関 名	所 在 地
日本アイシーエヌバイオメディカルズ(株) (旧名称：日本フロウラボラトリーズ(株))	〒102 千代田区飯田橋4-7-10 飯田橋セントラルビル 8 F ☎03-237-0844